

きべりはむし

第14巻 第2号

目 次

兵庫県のベニボタル(2)	高橋 寿郎	27
宝塚大橋の照明燈で採集した蛾(続報その6)	新家 勝	30
宝塚市内におけるヨコヅナサシガメの採集記録	加藤信一郎	33
宝塚市内におけるサシガメ2種の採集記録	新家 勝	34
西宮市御前浜で採集した甲虫類の記録	沢田 和宏	34
アオドウガネの食草についての報告(続報その1)	新家 勝	35
一宮町でのクロカナブンの採集例	森田 真澄	35
姫路市でのコガブトムシの採集例	森田 真澄	36
ヒラズゲンセイを神戸市で採集	森 和夫	36
ネアカヨツメハネカクシ兵庫県下からの記録	高橋 寿郎	37
イネミズゾウムシの兵庫県下での産地	高橋 寿郎	38
ワモンナガハムシ六甲山上にて採集	高橋 寿郎	39
ヒラタアオコガネ兵庫県下の分布状況	高橋 寿郎	40
ヒメコブヤハズカミキリ神戸市北区山田町にて採集	高橋 寿郎	41
スゲクビボソハムシ神戸市内で採集	高橋 寿郎	42
ネクイハムシ美嚢郡吉川町に多産	高橋 寿郎	43
エンマムシモドキの記録	高橋 寿郎	44
雑録"キベリハムシ"	高橋 寿郎	45
会員異動		

兵庫昆虫同好会

1986年11月

兵庫県のペニボタル(2)

(兵庫県甲虫相資料・170)

高橋 寿郎

10. *Plateros coracinus* (Kiesenwetter, 1874)。

クロハナボタル

Kiesenwetter が *Eros* 属の種として "Hiogo, Nagasaki" 産で記載された種である (Berliner Ent. Zeitschr 18:257, 1874)。Gorham は 1883 年 Kobe 産を記録している (Trans. ent. Soc. London, Part. IV:405)。

分布は日本全般で兵庫県下でも広く分布し個体数も割合多いようである。

産地：川西市能勢妙見山 (2 exs., 30-VII-1982)。Hiogo [Kiesenwetter, 1874], Kobe [Gorham, 1883]。神戸市山の街 (1 ex., 30-V-1954), 藍那 (1 ex., 16-VII-1979), 鈴蘭台大山公園 (1 ex., 23-V-1982, Y. Hachiya leg.), 烏原 (1 ex., 15-VI-1952, 1 ex., 18-VI-1971, 3 exs., 29-VIII-1971, 1 ex., 1-VII-1973, 1 ex., 5-VI-1976, 1 ex., 12-VI-1980, 1 ex., 12-VI-1980, 1 ex., 24-VI-1981, 1 ex., 15-VI-1982, 1 ex., 1-VI-1983)。神崎郡大河内町川上 (3 exs., 15-VII-1977)。相生市三湊山 (1 ex., 6-VII-1973)。氷上郡〔山本, 1958〕, Kaibara [Nakane, 1968]。宍粟郡音水 (1 ex., 15-VII-1973)。養父郡氷の山 (1 ex., 21-VII-1958)。美方郡扇の山〔辻, 岸田, 1972〕。

11. *Plateros hasegawai* Nakane et Baba, 1961

ニセクロハナボタル

中根, 馬場両博士によって記載された種である (Frag. Col. Pars. 1, p.5, 1961)。本州にのみ分布しているようである。

タイプは青森県の Nurukawa 産以外に十和田, 黒川 (新潟県), 木曾福島, 島々谷, 大台ヶ原山などがあげられている。

前記クロハナボタルと大変良く似た種でやや小型である。前胸背の形状, ♂交尾器の形状が異なる。兵庫県下では山地帯にいる種のようなようである。

産地：朝来郡須留ヶ峯 (1 ex., 31-V-1975, M. Yuma leg.)。城崎郡三川山〔高橋, 1978〕。養父郡氷の山〔1 ♂, 9-VIII-1951, K. Iwata leg., 1 ♂, 1 ♀, 5-VIII-1965, K. Tsuji leg.〕。美方郡扇の山〔辻, 岸田, 1972〕。

12. *Plateros marginicollis* Nakane, 1969

キベリハナボタル

中根博士により長野県の野尻と和歌山県的那智産をタイプに記載された種である (I.C., p.70-71, fig. 26, 1969)

本州産として知られている 前胸背の周辺部は黄色で勿論これだけでは種の区別は困難である。筆者の採集したのは♂で交尾器の形状と触角の形状等により区別した。ニセクロベニボタルにも似ている。兵庫県下では1♂しか採集していないので県下でどの様に分布しているか良くわからない。

産地：加西市畑(1♂, 23-VI-1974)。

13. *Plateros purpurivestis* Gorham, 1883 アカゲハナボタル

GorhamがFukushima産で記載した種である(I.C., p. 406, 1883)。本州, 隠岐島, 九州に分布しているようであり, 中根博士(1963), 佐藤・松田両氏(1985)の夫々原色図説がある。

兵庫県下では山地帯にのみ採集出来ている。

産地：宍粟郡赤西〔lex., 27-VII-1973, H. Hatanka leg.〕, 音水〔lex., 15-VII-1973, K. Tsuji det.〕。養父郡関宮町熊次〔Nakane, 1969〕, 大屋町田端山〔lex., 5-VIII-1975, M. Yuma leg.〕。美方郡扇の山〔辻, 岸田, 1972〕。

14. *Lyponia delicatula* (Kiesenwetter, 1874) ヒメベニボタル

KiesenwetterがNagasakiを産地にEros属で記載された(I.C., p. 254, 1874)。Gorhamは1883年Lyponia属の種としてNagasaki, Yuyama, Oyama, Miyanoshitaを産地として記録している(I.C., p. 405, 1883)。

本種も中根博士(1963), 佐藤・松田両氏(1985)の原色図説がある。

兵庫県下には広く分布しているようであるが個体数はそれ程多いように思われない。

産地：川西市笹部〔仲田, 1979, 1982〕。神戸市丹生山〔lex., 18-V-1958〕。宍粟郡音水〔2exs., 4-V-1972, K. Tsuji det.〕

多紀郡篠山〔中根, 1969〕。養父郡氷の山〔lex., 3-V-1972, K. Tsuji leg., 6-V-1966, H. Hatanaka leg., lex., 6-V-1973, M. Yuma leg.〕。

美方郡扇の山〔中根, 1969, 辻, 岸田, 1972〕。

15. *Lyponia osawae* Nakane, 1969 ヒメカクムネベニボタル

中根博士が記載された種である(I.C., pp. 89-92, Fig. 35, pl. II-3, 1969)。原記載にはきれいな原色図がついている。またタイプの産地も多い。ただし本州からのみ知られている。バラタイプの中には岩田久二雄博士が篠山で採集された1♂, 辻 啓介氏が盃山(篠山の近く)で採集された1♀がある。

県の中央部から北にいる種のようなものである。

産地：多可郡白山〔lex., 3-V-1973〕。多紀郡篠山, 盃山〔Nakane, 1969〕。養父郡氷の山〔lex., 5-V-1973, M. Yuma leg.〕。

16. *Lyponia quadricollis* (Kiesenwetter, 1874)

カクムネベニボタル

KiesenwetterがHiogoとNagasaki産標本を用いCeletes属で記載された種である(I. C., p. 252-253, 1874)。

GorhamはNagasaki, Kobe, Miyanoshita, Subashiriを産地にLyponia属の種として図を入れて記載(I. C., p. 404-405, pl, XVII, fig. 5, 6, 1883)すると同時にKiesenwetterが同じ所でEros militansをJaponiaを産地として記載したものが(I. C., p. 253, 1874)本種の♀であるとされた。GorhamはLewisによると割合普通にいと記している。

日本でも割合図説も多い。北海道と九州から南を除いた全般に分布している。

兵庫県下でも広く分布している。

産地：川西市笹部, 横地〔仲田, 1982〕. Hiogo〔Kiesenwetter, 1874〕, Kobe〔Gorham, 1883〕 神戸市山の街(1ex., 5-V-1954), 谷上(5exs., 18-V-1958), 有馬(1ex., 14-V-1967), 北鈴蘭台(1ex., 7-V-1983)。多可郡鳥羽(1ex., 29-IV-1972, 1ex., 1-VI-1975, 1ex., 8-V-1976), 白山(2exs., 3-V-1973)。相生市三渡山(1ex., 20-V-1973, 1ex., 12-V-1974)。宍粟郡赤西(3exs., 21-V-1979, 1ex., 27-V-1979), 音水(1ex., 31-V-1970, 1ex., 3-VI-1975, M. Yuma leg)。水上郡〔山本, 1958〕。養父郡氷の山〔高橋, 1959, 中根, 1969〕。美方郡扇ノ山〔辻, 1963〕, Hataganaru〔Nakane, 1969, 辻, 岸田, 1972〕。

17. *Eropterus nothus* (Kiesenwetter, 1874)

カタアカハナボタル

Kiesenwetterが産地をJaponiaとして記載された種である(I. C., p. 258, 1874)。GorhamはPlateros?としてOtsu: Biwa Lake; Nara; Samegai; Kobeを産地としてLewisが1881年に採集した7頭の標本で記載している(I. C., p. 406, 1883)。

SchönfeldtのCat. Col. Japan(p. 121, 1887)では産地はGorhamのものをそのままとしてPlateros属として記録している。その後日本ではPlaterosの属として取扱われて来た。中根博士は1969年台湾産 *Asioplateros flavipennis* をタイプに *Asioplateros* 属を創設本種もその属の種として取扱われた(Bull. Nat. Sci. Mus. Vol. 12, No. 1)。しかし同じく1969年の日本動物誌の中で同博士は北アメリカ産 *Dictyopterus trilineatus* Melsheimerをタイプとした *Eropterus* 属(Green, 1951)が *Asioplateros* 属とも違う点が見出せないとして *Asioplateros* を *Eropterus* のシノニムとして扱われた。

中根博士の原色による図説がある(1963, Plateros属)。割合とわかり易い種であり県下に

も広く産する種のようにである。

産地：川西市能勢妙見 (1ex., 30-VII-1982), 笹部〔仲田, 1978, 1982〕。Kobe〔Gorham, 1883〕。神崎郡大河内町川上 (1ex., 18-VII-1977)。飾磨郡雪彦山 (2exs., 14-VII-1967)。宍粟郡音水 (1ex., 20-VII-1969, 1ex., 11-VI-1972), 坂の谷 (1ex., 22-VII-1979)。豊岡市内〔高橋, 1978〕。養父郡氷の山 (2exs., 5-VII-1965, K. Tsuji leg.)。

18. *Lopheros lineatus* (Gorham, 1883)

ヒゲブトジュジベニボタル

GorhamがKashiwagiを産地にPlateros?として記載した (I.C., p.406-407, 1883)。河野博士によってAplatopterus属の種とされ (Ins. Mats., Vol.7, №1/2, 1932), しばらくはそのように扱われていた。中根博士の原色図説もそのようになっている (1963)。併しながら1969年同博士はLopheros属の種として取扱われた。

分布は本州と四国だけらしい (尤も最近の佐藤・松田氏によると本州, 南千島, 中国北東部が分布とされている。1985)。

産地：多可郡鳥羽 (1ex., 5-VII-1975, 1ex., 19-VII-1975)。宍粟郡坂の谷 (3exs., 22-VII-1979)。 (未完)

宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (続報その6)

新家 勝

I. はじめに

今回は1985年中の採集品について報告させていただく。今回もまた, 採集場所は「宝塚市」を省略して記載する。

II. 採集結果

1. Sphingidae スズメガ科

(1) *Oxyambulyx ochracea* Butler ホソバスズメ

1985. 7. 7 武庫川町

2. Arctiidae ヒトリガ科

- (1) *Stigmatophora flava* Bremer et Gray ゴマダラキコケガ
1985. 6. 11 武庫川町

3. Noctuidae ヤガ科

- (1) *Amathes c-nigrum* Linné シロモンヤガ
1985. 6. 6 武庫川町
- (2) *Protomiselia bilinea* Hampson フタスジヨトウ
1985. 5. 23 武庫川町
- (3) *Orthosia limbata* Butler シロヘリキリガ
1985. 4. 10 武庫川町
- (4) *Xylomyges saxea* Leech ケンモンキリガ
1985. 4. 9 武庫川町
- (5) *Athetis jezoensis* Matsumura エゾウスイロヨトウ
1985. 4. 25 武庫川町
- (6) *Characoma ruficirra* Hampson ネスジキノカワガ
1985. 4. 10 武庫川町
- (7) *Anomis flava flava* Fabricius ワタアカキソバ
1985. 9. 19 武庫川町
- (8) *Ectogonitis pryeri* Leech プライヤキソバ
1985. 4. 9 武庫川町

4. Geometridae シャクガ科

- (1) *Eupithecia recens* Dietze フタモンカバナミシャク
1985. 4. 25 武庫川町
- (2) *Crypsicometa incertaria* Leech ツマキエダシャク
1985. 10. 4 南口2丁目
- (3) *Semiothisa defixaria* Walker フタテンオエダシャク
1985. 6. 2 南口2丁目
- (4) *Pogonopygia nigralbata nigralbata* Warren クロフオオシロエダシャク
1985. 4. 23
- (5) *Arichanna melanaria fraterna* Butler キンタエダシャク
1985. 6. 12 南口2丁目

- (6) *Boarmia lunifera* Butler オオバナミガタエダシヤク
 1985. 6. 2 南口2丁目
- (7) *Ectopis aigneqi* Prout ウストビスジエダシヤク
 1985. 6. 11 武庫川町
- (8) *Planociampa antipala* Prout ヒロバトガリエダシヤク
 1985. 4. 10 武庫川町
- (9) *Auaxa cesadaria sulphurea* Butler キエダシヤク
 1985. 6. 12 武庫川町
5. Heterogineidae イラガ科
- (1) *Parasa sincia* Moore クロシタアオイラガ
 1985. 6. 12 武庫川町
6. Psychidae ミノガ科
- (1) *Canephora asiatica* Staudinger ミノガ
 1985. 6. 3 武庫川町
7. Pyralididae メイガ科
- (1) *Macalla amica* Butler オオフトメイガ
 1985. 7. 24 武庫川町
- (2) *Endotricha mesenterialis* Walker ウスベニトガリメイガ
 1985. 6. 11 武庫川町
 1982. 8. 14 南口2丁目
- (3) *Endotricha icelusalis* Walker オオウスベニトガリメイガ
 1985. 6. 12 南口2丁目
- (4) *Pyrausta pervulgalis* Hampson トガリキノメイガ
 1985. 6. 11 武庫川町
- (5) *Cnaphalocrocis medinalis* Guenée コブノメイガ
 1985. 10. 6 南口2丁目

III. ま と め

1985年中の新たな採集品は、スズメガ科1種、ヒトリガ科1種、ヤガ科8種、シヤクガ科9種、イラガ科1種、ミノガ科1種、メイガ科5種で、計26種となった。月別によると、4月7種、5月1種、6月12種、7月2種、9月1種、10月2種で、前半が圧倒的に多く、後半は非常に少ない。後半の不調は、6月末から7月にかけて雨天の日が多く、8月に転居した後は宝塚大橋ま

で遠くなってしまったなどのため余り採集に行けなかったことによる。

本年の採集品には特筆すべきものはないが、異変としては毎年6月初旬に必ずみられたキアシドクガの群飛がなくなってしまったことがあげられる。付近に食草が無くなったか、天敵が多数発生したか、食草の衰弱のため発生できなくなったかではないだろうか。淋しい限りである。植込みのツゲには、ツゲのメイガが多かった。また、1987年に採集して以来採れなかった、外来種のスジツグを、5月に数頭目撃し、うち1頭を採集した。

宝塚大橋まで従来は2Km弱の所に住んでいたのが、転居のため4Km強になってしまったが、コマツキヤサンガメにかなりの珍品を得たことが励みになっており、これからも、ここでの採集に精を出したい。

IV. 参考文献

- 講談社 日本産蛾類大図鑑
北隆館 原色昆虫大図鑑 I
保育社 原色日本蛾類図鑑

宝塚市内におけるヨコヅナサシガメ の採集記録

加藤 信一郎

筆者は自宅の庭(宝塚市清荒神)で、30-V-1975, 1ex. 16-V-1982, 1ex. を採集し所蔵している。

南方系のヨコヅナサンガメは兵庫県下でも各地で記録されており、現在では特に珍しいものではないが、宝塚市の市街地では、1975年(1♂)、1984年(頭数不明)が記録されているだけであるので(高橋, 1981, きべりはむし), 参考までに報告した。

宝塚市内におけるサシガメ 2 種の採集記録

新 家 勝

1. *Agriosphodrus dohrni* Signolet ヨコヅナサシガメ

ヨコヅナサシガメの県下での記録は1960年代からで比較的新しく、また特異な形をしていることから注目される昆虫であり、多くの報文がある。宝塚市内での記録については、本誌第9巻1号に千叡、大原野中部、清荒神、市内の記録が紹介されており、宝塚市史第7巻動物篇に市内でも北部佐曾利まで広く発見されると述べられている。筆者も今年は次の通り市街地で採集することができた。なお、山地での記録としては、Ⅳ、14、1979に鳥ヶ脇、榎峠附近のクリ林で終令幼虫の群棲を目撃した例がある。

(1) V. 17. 1986 宝塚市山本1丁目

(2) V. 24. 1986 宝塚市南口2丁目、宝塚大橋電燈

2. *Gorpis brevilineatus* Scott アカマキバサシガメ

余り多くないカメムシではないかと思われる。宝塚及びその近辺での、筆者の採集例は次の1例のみである。

(1) VI.1.1985 宝塚市中筋、天神川谷

西宮市御前浜で採集した甲虫類の記録

沢 田 和 宏

1986年5月26日、西宮市の夙川河口部にある御前浜で採集を試みたところ、次の6種の甲虫を採集することが出来たので報告しておきたい。

今回報告する6種は特に珍しい種類を含んでいる訳ではないが、兵庫県海浜部における採集報告例は余り多くないことと、6種共西宮市からは初めての記録になるものと思われるので分布資料として報告する次第である。

報告に先立ち、各種の兵庫県における記録について懇切なご教示をいただいた高橋寿郎氏に心からお礼を申し上げる。

1. *Hypocaccus sinae* MARSEUL ニセハマベエンマムシ 29 exs.

姫路市でのコガブトムシの採集例

森 田 真 澄

コガブトムシ *Eophileurus chinensis* Faldermann を採集しているので報告する。
姫路市唐端新, 1♂, 26-X-1981。 筆者採集。
民家に近接した雑木林で採集したが, 現在は市道が貫通し, その雑木林はほぼ消滅している。

ヒラズゲンセイを神戸市で採集

森 和 夫

ヒラズゲンセイ *Cissites cephalotes* OLIVIER は, 九州, 四国, 紀伊半島等に分布 (原色日本甲虫図鑑Ⅲ, 保育社刊)。また近くでは, 淡路島南部からも報告されているが, 昨年, 下記のように, 神戸市内にて採集することができたので報告する。

採集データ

採 集 地 ; 神戸市北区山田町藍那

採集日時 ; 1985年7月7日

午前11時頃

個 体 数 ; 1♂

当藍那地区は, 神戸市内とは言っても, 標高250m位の山中であり, 周辺の宅地化が進んでいる中で, この付近は, 特に, 自然環境が保存されている所である。しかし, 冬期には, かなり低温になるものと考えられ, このような所で, 本種を採集できたことは, 全く思いがけないことであった。

当日は, 梅雨明けを思わせるよく晴れた, 暑い日であった。山道に沿った民家の壁際を這っていたものを採集した。生かして持ち帰り, その夜に部屋の中で見ていると, さかんに動き回り, 何度も飛び立った。餌がわからないので, 薄い砂糖水を口に含ませていたが, 効果があったかどうか不明であった。その後, 10日間生きていた。

なお, 当日は, その他に

トックリゴミムシ	<i>Lachnocrepis prolixa</i> (BATES)	2exs.
シマゲンゴロウ	<i>Hydaticus bowringi</i> CLARK	1ex.
トゲアシクビボソハムシ	<i>Lema coronata</i> BALY	2exs.,
イネミズゾウムシ	<i>Lissorhoptrus oryzophilus</i> KUSCHEL	7exs. (多産)

等も, 採集することができた。

ネアカヨツメハネカクシ兵庫県下からの記録 (兵庫県甲虫相資料・171)

高橋 寿郎

1986年5月8日美嚢郡吉川町奥山の池畔で蜂谷幸雄氏が水棲昆虫を採集中池畔の草叢から1頭のハネカクシを採集された。貰い受けて帰宅後調べて見たらネアカヨツメハネカクシ *Lesteva plagiata* Sharp であった。このハネカクシは Sharp が 1889年 Yokohama, Oyayama, Miyanoshita を原産地として記載された種であり (Ann. Mag. nat. Hist. (6) III, p. 472), 北海道, 本州, 佐渡島, 四国, 九州に広く分布している種で通常河原や溪流際の石の下や落葉下から採集されているといわれている。それ程珍しい種ではないようであるがどうしたものか兵庫県下からの記録が全く見当らなかった。従って今回のものは兵庫県下から初めての記録になる。

この *Lesteva* 属の日本産ハネカクシは柴田泰利氏によると (日本産ハネカクシ科目録 I. pp. 113-115, 1976) 5種いることが知られていてその内2種が Cameron により神戸産で記載された種である。即ち *L. lewisi* Cameron (Ent. mon. Mag., 66:182, 1930) (Kobe, Shinowara)。 *L. persimilis* Cameron (Ent. mon. Mag., 66:182, 1930) (Kobe)。この2種はその後兵庫県下からの記録が全くない。否日本からの記録も見当らない。どの様な種なのか再調査をしなくてはいけないと思う。また *L. fenestrata* Sharp フタモンヨツメハネカクシは阪口浩平, 沢田高平両博士によって神戸市御影産で原色図説されている (原色日本昆虫図鑑, 増補改訂版, pl.14, f. 267, p.50, 1955)。こちらも水辺, 石下, 草間に棲息すると記されているが県下からこれ以外記録が無い。どうもこの *Lesteva* 属のハネカクシは水辺, 石下, 落葉下に棲息しているグループの様なのであるがその生態に就いては良くわかっていない点が多々ある。渡辺泰明・永井正樹両氏は新潟県の護摩堂山で岩の裂け目で集団死亡をしていた例を報告しておられる (甲虫ニュース №17-18, p.7, 1974)。

尚ネアカヨツメハネカクシは中根猛彦博士の原色昆虫大図鑑Ⅱに *Lesteva fenestrata* Sharp フタモンヨツメハネカクシ (pl.42, f.2, p.83, 1963) としてカラーで図説された後1978年の追補・正誤表で *L. plagiata* に訂正された (p. 4)。1985年渡辺泰明氏もカラーで図説しておられる (原色日本甲虫図鑑 II, pl.47, f.5, p.267)。

いづれにしてもこの貴重な標本を御恵与下さった蜂谷氏に末筆ながら厚く御礼申しあげる。

(JULY. 1986)

イネミズゾウムシの兵庫県下での産地 (兵庫県甲虫相資料・174)

高橋 寿郎

1976年愛知県常滑市で発見されその後年間約20Kmの速度でその分布を拡げて1984年には日本で北海道と沖縄を除く45県に分布が確認されたと云うイネミズゾウムシ *Lissorhoptrus oryzophilus* Kuschel。兵庫県下(淡路島も含む)には1981年に分布発生したとある(桐谷, 1984)。

いわゆるイネの害虫であるから対馬海峡をわたって朝鮮半島にまで分布を拡げてゆくのではないかと云われている。従って兵庫県下にも広く分布しているのではないかと思われるのだが具体的に何処にどの様に分布しているか云う記録を筆者は全く知らない。どなたか御教示頂くことが出来ればと考えている。たまたまこゝ1, 2年の間に筆者自身本種を県下で採集しているので此処にその産地を記録しておくことにしたいと思う。

神戸市谷上 6♀, 1-VI-1986, 2♀, 6-VI-1986。

谷上の鰻ノ手池畔のヨシをすくって得た。

美濃郡吉川町 1♀, 16-VI-1985。

美濃郡吉川町奥山 1♀, 8-V-1986, 1♀, 17-V-1986。

こちらは中国自動車道を挟んで北と南に位置する地点でこのあたり酒米の産地として有名な地域である。恐らくこの地域一帯には本種は分布していそうである。尚近くの三木市口吉川でも採集している。1♀, 16-V-1986。

本種が日本ではメスの単為生殖をしていることは良く知られている(原産地は北アメリカでアメリカではオスがいるとのこと)。成虫態で越冬しチガヤ, ススキなどイネ科雑草を摂食し田植が始ると水田に侵入してイネの葉を食べる。成虫は水中, 水面を容易に泳ぎ5月上, 中旬頃から水際付近のイネの葉鞘に産卵すると。

最近とかく話題になっているゾウムシで次の文献には詳しく解説されているので大変参考になる。

桐谷圭治, インセクトリウム Vol. 21, №9, pp. 248-253, 1984。

諸橋公徳, 昆虫と自然 Vol.20, №1, pp. 31-32, 1985。

森本 桂, 日本の昆虫, pp.134-135, 1986(東海大学出版会)。(JULY. 1986)

付記:その後「イネミズゾウムシの防除」編集委員会編『イネミズゾウムシの防除』(175p. 日本植物防疫協会刊, 1986)を見る機会を得た。それによると本種の兵庫県での初めての発見は

1981年大阪府境の川西市と猪名川町の山あいとなっており、1983年淡路島や日本海側の但馬地方にも及び、1984年淡路島で大巾に拡大、県西の岡山県側を残すのみとなりとあり具体的な産地の記録は出ていなかった。一冊の本としてとりあげる程全国的に大きな被害を与えているゾウムシのようである。尚本誌上に森氏が記録されているように神戸市の藍那にも多くいる。

(AUG. 1986)

ワモンナガハムシ六甲山上にて採集 (兵庫県甲虫相資料・175)

高橋 寿郎

ワモンナガハムシ *Zeugohora (Pedrillia) annulata* (Baly, 1873) は小形(体長4.2-4.8mm)ではあるがなかなか美しいハムシである。戦前(1937)『日本の甲虫』創刊号に神谷一男氏が関口俊雄画伯の手になる原色図で本種を図説され(pl. 1, f. 3, p. 2-3。Pedrillia属で和名はセボシハムシとされていた)でこの美しいハムシをなんとか自分の手で採集したいものだと眺めたものである。筆者自身で採集することの出来たのがそれから20年たった戦後1956年養父郡氷の山においてであった(2exs., 27-V-1956)。その後f. *biguttata* (Kraatz)と云うのを宍粟郡音水で採集した(1ex., 4-V-1972)。現在にいたるまで筆者はこの3頭しか採集したことがなかった。兵庫県下の記録も大変少い。最近磯野昌弘氏は美方郡浜坂町宇都野神社、城山、観音山での採集例を報告しておられるがこのあたりには比較的いるようである。県下ではその他に城崎郡金山峠〔高橋、1975〕、養父郡氷の山〔辻、1972〕、美方郡扇ノ山〔辻、岸田、1972〕の記録があるが可成り個体数が少いと云うのかまづ県下では珍品と云える様な状況しかわかっていないし県の南側での産は全くなかった。1986年5月12日六甲山頂へヒラタアオコガネの採集に行った際灌木を網で拘って1頭採集することが出来た。驚くと同時にこゝはと思う所を可成り念入りに拘って見たがこの1頭のみで後は採集出来なかった。六甲山系からは初めての記録でありその出現期からして調査が充分でない点もあると思われるがこの様な珍しい種がまだ六甲山系にいたることがわかって大変喜んでいる。もっと詳しく調べて見なくてはと考えている。因に本種の食草はマユミ・ニシキギ・クロヅルなどとなっている。分布は北海道、本州、四国、九州、シベリアと広く大方の図鑑には図説されていて考え様によってはそれ程珍しいものではないのかも知れない。(その後5月25日神戸市の谷上で神戸生物クラブの採集会が実施され森 和夫氏と御一緒した際、森氏が既に摩耶山で1ex.(11-VI-1967, K. Mori leg) 本種を採集していることを御教示頂いた従って今回筆者のものは六甲山系からの初めての記録ではないことになる。だが個体数の少い種であることは間違い無い。御教示頂いた森氏に厚く御礼申しあげる)。(JULY. 1986)

ヒラタアオコガネ兵庫県下の分布状況 (兵庫県甲虫相資料・176)

高橋 寿郎

ヒラタアオコガネ *Anomala octiescosta* (Burmeister, 1844) は体長 9.5-12 mm のやゝ小形通常緑色の美しいコガネムシであり主として西日本(本州, 四国, 九州, 屋久島)にいる。

日本のコガネムシの中では可成り古く記載された種で原記載 (Handb. Ent. IV, 1, p.243, 1844) には産地名が記されていないがその頃から多くいた種なのであろう (原記載は *Phyllopertha* 属)。1875年に Waterhouse は "Japan. A common species; it appears with the first warm days of spring," (Trans. ent. Soc. London, p.108, 1875) と書いている。

古い文献には濟州島, 朝鮮の分布も出ているが現在の知見では対馬にツスマスジコガネ *A. sieversi* Heyden を産し, この種が濟州島, 朝鮮に分布しているのであってヒラタアオコガネの方は日本特産種のようなのである (筆者の手許に朝鮮産ツスマスジコガネ 3♂があるが上翅は緑色がより鮮かであり, 上翅の縦隆線があまり隆まらずどちらかと云えばヒラタアオコガネより大きい)。

ところでこのヒラタアオコガネが兵庫県下ではほとんど産地が知られていない。川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕, 城崎郡杉ヶ沢〔高橋, 1975, 1981〕に夫々一例がある以外は神戸市内の烏原 (1♀, 28-V-1942, 1♂, 3-V-1985), 大池 (1♂, 14-V-1961) で採集出来ている位で後は六甲山だけに多く産する。六甲山に本種が多くいることを教えて下さったのは山本義丸氏で氏御自身採集された 1♂ 2♀ (15-V-1954) を御恵送下さって六甲山頂には多くいますよと御便りを下さった。そこで翌年 1955 年 5 月 8 日に六甲山頂に出かけてゴルフ場 (神戸ゴルフクラブ) のそばで本種が多くいるのに出会い 34♂ 37♀ を採集した。その後依然として本種の県下からの記録が出ないまゝに現在にいたっている。六甲山での本種はその後どうなっているのだろうか気にかゝりつゝ機会が無く 1986 年 5 月 12 日実に 31 年振りに六甲山頂のゴルフ場まで出掛けて見た。そしてやはり多くいるのに出会い安心すると共に恐らく芝生を食害していると思われるのに余り関心が払われていないのに驚いたりした。即ちゴルフ場の真ん中を横切る様にハイキングコースがある。球よけに金網のトンネルが張ってあるから芝生から飛び立った本種がその道路上に飛来してきて降りる。可成の数の個体がハイカーによって踏み殺されている。大体 30 分位飛んでいるもの降りてきたものを採集してみた所 42♂ 36♀ 採集出来た。相当の個体が発生しているようである。

静岡県下で主としてゴルフ場における芝草害虫の研究調査をされた細辻豊二・吉田正義 (1979),

吉田正義・廿日出正美（1981）の報文には本種が出てこない。これは静岡県下には本種がいないからであろう（1984年の黒沢良彦・渡辺泰明両氏の野外ハンドブック 12, 甲虫によると最近芝についてきたのか千葉県ゴルフ場で本種が発生して話題になったとあり、この様に運ばれて分布を広げる恐れはある。千葉県の記録はその後山崎秀雄氏が市川市をされている。月刊むし, №187, p.38, 1986）。たゞその中で解説されているウスチャコガネ *Phyllopertha diversa* Waterhouse の状況と良く似ている。ウスチャコガネはこの時期はもっと平地即ち播磨平野部あたりではいくらかでも見られるが六甲山頂では本種は見られなかった。交尾状態のものは観察出来なかったが恐らくこの時期に交尾をするのであろう。それと採集している時間帯が午前8～9時の間である。細辻・吉田氏も芝生でマメコガネの群飛のピークは午前8～9時と報じておられる。コガネムシ類に芝生での群飛のピーク時間帯が同じ様な状況下で見られると云うことがあるのだろうか。

ゴルフ場で作業している人に聞いて見るとコガネムシは年によって多い少いがあるが結構たくさんいますよとのことであった。本種のみならず他のコガネムシもいるように思われる。何か対策をたてようとしているのだろうか。

とに角六甲山のゴルフ場にはいくらかでもいるのに兵庫県他の地ではほとんど採集出来ない。ゴルフ場の数では全国で1, 2を争う位の兵庫県である。他のゴルフ場あたり芝草を害するコガネムシがもっといそうに思うがどんなものであろうか。 (AUG. 1986)

ヒメコブヤハズカミキリ神戸市北区山田町にて採集 (兵庫県甲虫相資料・177)

高橋 寿郎

六甲山系のヒメコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber* (Bates, 1873) は筆者残念ながらこの所20年以上採集していない(摩耶山では33年間も未採集である)。記録の方もそれ程多く見られない。いるのはいるはずであるが狙って採集出来ていない。出会いのチャンスが極めて少い種のようなのである。

1986年6月4日久方振りに神戸市内で本種を採集したので報告しておきたい。採集した場所は神戸電鉄谷上駅から谷山川にそって殿ノ手池に到る舗装道路上を午前8時頃歩いていた1♂である(右触角の9節から先欠如)。六甲山系とは云えないが所謂丹生山系金剛童子山の麓にあたる場所でこのあたりの地域からの記録としては勿論始めてのものである。 (AUG. 1986)

スゲクビボソハムシ神戸市内で採集 (兵庫県甲虫相資料・178)

高橋 寿郎

スゲクビボソハムシ *Lema dilecta* Baly は Baly, J. S. により "Hiogo, Japan; a single specimen" として新種記載された種である (Trans, ent. Soc. Part. I, p.74, 1873)。

Gemminger & Harold による Col, Cat., II, p.3253, 1874 には Japonia とのみ記録されている。Jacoby, M. は 1885 年 "Ogura Lake, and Kyoto" を記録された (Proc. Zool. Soc. Lond., p.194, 1885)。また桑山 登博士は "Nakano, Prov. Musashi, Maruyama, Prov. Ishikari" を産地に加えられ本種の分布を北海道, 本州とされた (Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. Vol.33, pt.1, p.70-71, 1932)。

日本産 *Lema* 属中の最小種の 1 つで (体長 3.8~4.2 mm)。頭部は赤褐色の前頭中央部を除き青藍色。上翅も青藍色の美しいハムシであるが何にせ小さいことで一般に注意されていないようで現在の分布は北海道, 本州, 九州と日本特産種で少い種の 1 つであるとされている。

兵庫県からの記録は原記載の 1 標本以後 1955 年後藤光男氏が宝塚産 (IV.1951) を原色で図説された (原色日本昆虫図鑑 甲虫篇, 増補改定版, pl.21, f.443, p.70. 和名はチビルリクビボソハムシとなっている)。その後木元新作博士が 1964 年の論文 "The Chrysomelidae of Japan and the Ryuhyu Islands, II" の中で図説されると共に (Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ., Vol.13, No.1, p.126, fig.16) "Hyogo: Takarazuka (2exs., 22, Apr.1953, Z. Nomura leg.)" なる記録を発表しておられる (御本人にお尋ねしたわけではないがこの採集者は野村 全氏だと思う)。

県下での記録は僅に以上の例を知るだけで全くもって珍しい種の 1 つであると考えていた。1986 年 6 月 1 日神戸市北区山田町金剛童子山殿の手池北側の湿地にネクイハムシの調査に出掛け網でヨシをすくって 1ex. 採集出来たので久方振りの記録として此処に報告しておく (体長 4 mm)。尚この標本の肢は腿節ほとんど黒味を帯びていて脛節並びに各附節の生端も黒っぽい (その他は赤褐色)。

本種の原色の図説は中根猛彦博士 (原色昆虫大図鑑 II, 1963), 木元新作博士 (原色日本甲虫図鑑 IV, 1984) のものがある。

(AUG. 1986)

(付記) 1986 年 9 月 13 日大倉正文氏古稀祝賀会が大阪中津の東洋ホテルで開催された。発起人の一人として参加させて頂いたが同じく発起人として野村 全氏もお見えになりお会い出来たのでこのハムシのことをお聞きしたのであるがどうも記憶に無いとのことであったので、木元博士の記録された 2exs. は野村 全氏採集のものではないようである。

ネクイハムシ美囊郡吉川町に多産

(兵庫県甲虫相資料・179)

高橋 寿郎

ネクイハムシ *Donacia lenzi* Schönfeldt (和名は木元, 1984による) は Schönfeldt により Hiogo 産で記載された種である (Ent. Nachr. 14:33, 1888)。神戸に 1874-1880 年の間滞在した商人 Lenz, Tuiscon が神戸で多くの昆虫 (主として甲虫, 若干の半翅目) を採集しその標本をドイツに持って帰ったがこの種も Lenz の採集品で種名が Lenz に献名されている。Hiogo とあるが勿論現在の神戸のことである。

1873年に Baly, F.I.S. が *Donacia araria* Baly として "Nagasaki and Hiogo, Japan" を記録している (Trans. ent. Soc. Lond. Part.1, 1873:69) がこの種も *D. lenzi* に当る (Lewis, Entomolog. 26:153, 1893)。この Baly の記録では "This insect was found by Mr. Lewis on a small species of water lily" とある。

この様に神戸産で記載された種でありながらその後全く神戸からの記録の無い種であった。

兵庫県下からの記録は 1981 年野尻湖昆虫グループの方々の "日本産ネクイハムシ亜科に関する研究" (Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. №34:27-46) の中において 3ヶ所が記録され, 1985年に発表になった "アトラス日本のネクイムシ" の中で県下 5ヶ所が記録された (1981年の記録もふくまれる)。しかしながらこれ等の記録の中には神戸の産が全くふくまれていない。たまたま 1986年 5月 25日神戸生物クラブの採集会が谷上にて開催されその際叩き網で本種が 1♀採集出来た。そこで日を改めて 6月 1日再度調査に出掛け 2♀を採集した。場所は神戸市北区山田町金剛童子山殿ノ手池畔である。神戸市と云っても若干奥に入った地点であるが原産地近くに分布していることが確かめられた (余談ではあるが神戸市立森林植物園内にある長谷池, 学習の森の中の池, 洞川湖等 1986年 6月 14日調査して見たがその時点では見ることが出来なかった)。

さらにこの地からやゝ北方に当る美囊郡下には本種を多産するのでこちらも報告しておきたい。場所は中国自動車道をはさんで南側の吉川町市野瀬, 北側の吉川町奥山両地域の池 4ヶ所で本種を多数見つけ, また採集もしている。このあたり酒米の産地として良く知られた地域であるが溜池が多くそれらにはジュンサイ, ヒツジグサ, コウホネが見られるのである。それ等に本種が発生している。一応次のように採集している。吉川町市野瀬 (8♂, 10♀, 2-VIII-1985), 吉川町奥山 (14♂, 16♀, 5-VI-1986, 池は 3ヶ所)。その後 6月 10日再び同地を訪れ吉川町奥山の池 2ヶ所と今回は新に渡瀬にある吉川高等学校の南側道路ぞいにある池 2ヶ所でも多数見ることが出来た。無作為に採集しているがほとんどの数は等しく採集出来ている (28♂ 29♀)。

勿論本種は日本全域、朝鮮半島、中国、台湾、フィリピンと分布は極めて広い種であり県下でも少し注意すればまだまだ広く多く産する種であろうと考えられる。

尚最後になって申し訳無いが美濃郡下での採集したものはその大部分が蜂谷幸雄氏の手を煩わしている。標本は全部筆者が保管しているが蜂谷氏の御好意に深謝させて頂く。 (AUG. 1986)

(付記)その後1986年9月11日三木市笹原の池で2♀を採集した。このあたりの池にもヒツジグサなどが多くあり、本種の食痕のようなものも多く見られた。恐らく広くこのあたりには分布していそうである。

エンマムシモドキの記録 (兵庫県甲虫相資料・180)

高橋 寿郎

1986年8月31日神戸生物クラブ恒例の鑑定会々場(神戸大丸屋上)にて同クラブ顧問の東正雄先生から同定を求められた標本はエンマムシモドキ *Syntelia histeroides* Lewis であった。本種の県下での記録は鉢高原〔高橋, 1975〕と云うのがあるがそれ以外の記録は見当らず県下では可成り珍しい種の一つであると思われるので東先生のお赦しを得て此処に記録させて頂く。尚先生から採集時の状況も御教示頂いたので次に紹介しておく。

〃養父郡氷の山の高度800m内外の地点でツルウメモドキ *Celastrus flagellaris* Rupr. のやゝ大きな木の根もと近くの朽ちた樹皮を取りのぞいていたとき地面から20~30cm内外の高さで樹皮の裏面にひそんでいた〔越冬から出たのか?〕のを採集した。日時は1986年6月22日で雨後でかなり地面は湿気があった〃と。先生と御子息と一緒に先生の御専門の陸貝の調査・採集に行かれて採集されたもので(このエンマムシモドキは御子息の採集)先生は氷の山・鉢高原・横行溪谷は毎年の様に10数回調査に行っておられるとのことである。

この貴重な標本を検査する機会を与えて下さり、採集時の状況を御教示頂き記録の発表を赦された東先生に厚く御礼申しあげる。標本は東先生保管。 (SEP. 1986)

高 橋 寿 郎

1986年7月21日サンケイ新聞神戸サンケイ（神戸版）紙上に7月20日から神戸市立森林植物園で始った特別展「六甲山の四季」の紹介文が出ていた。その中でキベリハムシが紹介され「台湾が原産で、マニアの間では1～3万円の値段がつけられている」と云う記事があった。

たかゞ新聞記事であるとして一笑に付してしまえば良いのかもしれないがマスコミの報道は結構影響力があるので一言苦言を呈しておかねばと筆を執った次第。

台湾が原産は明らかにミス。原産地はホンコン（Hong Kong）である。森林展示館の解説にそう説明してあったことがある。この解説は間違っているからと館長に訂正を申し出たので現在ははずされている。

一匹1～3万円で売られている様な表現。事実とすれば筆者など既に一財産こしらえていなくては行けない。大体キベリハムシが商品として売買されていると云う話は筆者は聞いたこともないし、知らない。筆者も好きな道、また楽しいとあって外国産のコガネムシ標本を大体日本に現在ある9社位の標本商から時々購入したりしている。従ってそれら標本商の標本カタログ、標本ニュースは大体目を通して見ている。キベリハムシが実際に売買されているとすれば何か出てきそうなのだが——、聞て売買されているのだろうか？場所によっては普通にいる虫なのにほんとうにそんな値で売買されているのだろうか、どうも良くわからない。最近ではマスコミも針小棒大の表現と云うか読者・視聴者を引きつける表現をしなくては行けないと云うことから一番わかり易い金で表現する、裏付けがあれば結構だが——（8月2日夜9時からのテレビ大阪を見ていると東京の百貨店での話としてオオクワガタ♂♀¥120,000、ヒラタクワガタ♂♀¥15,000と出ていた）。新聞の報道が真実だとは思ってもないが少くとも根拠のあることを報じて頂きたい。取材にこられてこちらのお話を良く理解しないままに誤って記事にして訂正を申し入れるとあれは昨日のことですからと読み捨てと云った無責任な態度では困ったものである。

所で1985年に室井 紳・清水美重子共著になる「室井ひろしの自然百科」（地人書館）が出版され、その頁144-145にこのキベリハムシが取りあげられている。その中で「このキベリハムシはもと台湾産であるが、どういうわけか香港で捕えられたものに命名され紹介されたいわくをもって」とある（p.145）。さらに1986年兵庫県生物学会創立四十周年記念として「竹と共に七十年——室井 紳博士物語」が出版され、そのp.36に同様の表現をされたキベリハムシの解説がある（この生物抄は前記自然百科を要約した様なものである）。

これによるとキベリハムシは大体が台湾産であって、たまたま香港でとれたもので命名記載された

種と云う妙な具合になる。本種が台湾にいるかどうかには就いては戦前永く台湾にお住いになっておられ台湾のハムシの分類研究で学位を取られた中條道夫博士からの直接の何度かの御教示では台湾産は否定しておられたし、当時ハムシの研究の権威 湯浅啓温博士も台湾にはいないのではとも云っておられた。現在の日本を代表する原色図鑑、中根猛彦博士の原色昆虫大図鑑Ⅱ (pl.168, f.11, p.335, 1963) 及び木元新作博士の原色日本甲虫図鑑Ⅳ (pl.35, f.25, p.182, 1984)には共に本種の分布に台湾は入っていない。本種が台湾にいるとされたのは加藤正世博士の分類原色日本昆虫図鑑 9輯, 1933が始めてであろうと考えられる。加藤博士の台湾産昆虫についてはこのキベリハムシ以外にも色々分布上問題のある種があるように聞いている。これらに関しては筆者もかつて報告させて頂いたことがある(採集と飼育 36巻, 4号, pp.88-91, 1974)。

最近のように多くの採集家たちが台湾で採集もしているし、台湾の昆虫標本も数多く日本にきている現状でこれだけ美しい大型ハムシ、ましてや始めの新聞記事の様に高価で売買されているとすれば当然吾々虫屋の耳には何等かのルートで情報として入って来そうなものなのに今の所その様な話も聞いていない。これは飽く迄も筆者が知り得た情報からの判断であるから或は室井博士は台湾産であると云う裏付けをお持ちなのかも知れない(現に日本では兵庫県特産と云われているが隣接の京都府下で可成り多産していたと云う非公式ではあるが確な方の情報も頂いている。自分で確認出来ていないのでそのまゝになっているが —)。

少くとも現段階での台湾産は否定的である(いても不思議ではないように思うが)、このあたり何方か何か御教示頂くことが出来ればと考えている。いづれにしてもマスコミが煽情的な取り扱い方をしてほしくないものだと考える(尚朝鮮に分布するか否かも今一つ良くわからない問題点である)。

末文になって申し訳ないがサンケイ新聞の記事を御教示下さった蜂谷幸雄氏に厚く御礼申しあげる。(付記)本文を書き終った8月3日 福貴正三氏から電話で清荒神あたりでキベリハムシが割合多くいますと御教え下さった。今迄武庫川から東の分布は余り知られていなかった様に思う。この種も分布を東の方にのぼし始めたのかもしれない。

さらに8月16日神戸新聞朝刊に森林植物園の特別展が写真入りで紹介されていた。今回はキベリハムシの分布は中国南部とあり正しくサンケイの様ないゝ加減な記事ではなかった。尤も神戸新聞の記事は、ちゃんと報道者名が明記してあり、それだけ責任の所在がはっきりして気持が良かった。

(AUG. 1986)

編 集 後 記

- 本年は梅雨空けが7月下旬にずれ込み8月上旬も台風くずれの天候不順と例年といさゝか違った様相のようでした。5、6月の頃も季節の移りが1週間位は遅くなっていた様にも思われました。昆虫の出現にも影響があったのではと思いますが如何でしたでしょうか。
- お陰さまでVol.14, №2も発行することが出来ましてホッとしております。今号は特に短報特集のようになりましたが色々と面白い記録の発表があり大変充実していると思います。御投稿下さった方々には厚く御礼申しあげます。
- 来年は15巻になります。私がお世話させて頂いて丁度10年目です。このあたりが区切りの潮時かと考えたりしています。何はともあれ15巻は発行しますので長短にかゝらず原稿をお寄せ下さい。また会費の方も宜敷しくお願い致します(少しでも負担を軽くして下さい)。

(T)

きべりはむし 第14巻第2号

昭和61年11月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋寿郎方

振替 神戸7-26646

印刷：(株) 文 尚 堂

〒652 神戸市兵庫区下沢通3丁目4-11
